令和７年度「すぎのこ」第３号　　R７年５月３０日発行

すぎのこ

幼保連携型認定こども園
尚絅大学附属こども園

「穴掘り」はおもしろい！

チャレンジする心を育てる「非認知能力を育てる　その四」

本園の園庭東側に「わくわくの森」があります。ここでは年少さんがサツマイモの苗を植え、十一月の「親と子のつどい」で収穫をします。また栗の木があって、秋には園児が栗拾いに行きます。他にもレモンやミカンの木、ビワの木等があり、それらの実を採ってはその場で食べることもできます。

先日、年長さんがわくわくの森に行きました。何をしに行ったかといえば穴掘りです。(そのための幼児用のスコップもたくさんあります。)何のために穴掘りに行ったのでしょう。野菜を植えるためでもタイムカプセルを掘るためでもありません。正解は「穴を掘るため」です。

「なんかわからないけれど、穴を掘ると楽しいな。あら、落とし穴ができそうだぞ。秘密基地になりそうだ。そうしよう。」と最初ははっきりとした目的がないうちに何かやりたいことが見つかっていくという感じです。最初から、何かを完成させようとは思ってはいません。「やりたいことをやる！」のがスタートです。

とりあえずやりたいことをやっていくうちに、新たな欲求が生まれたり掘ることのコツに気付き「自分って思った以上にできるんだ」と自分の可能性を広げたりしていくものでしょう。大人から見れば行き当たりばったりに見えるかもしれませんが、この行き当たりばったりが「試行錯誤」の経験につながり何かの課題を解決する上で大きな力となってくるのだと思います。そんな体験が次の新しいことに対しても「できるかもしれない」という根拠のない自信が持てて、「チャレンジする力」となっていくことでしょう。挑戦することで得られる「達成感」や「自己肯定感」は子どもの自信を育て将来の選択肢を広げる重要な要素になっていきます。

これを大人が「今日はこれをします。」「ちゃんと決めてからしなさい。」「○をしてといったでしょう。勝手に他のことしません。」(これが大切なこともあります)と言われ通りのことばかりやっていたらどうでしょう。だんだんやる気が失せてやらされ感だけが残り、指示を待つ受け身の態度が大きくなってくることでしょう。

もしかすると、「できない(苦手)からやりたくない」という子どもたちは、そんな体験があって、あそぶことのハードルが他の子よりも少しだけ高くなってしまっているのかもしれません。

ちょっと自信を無くしたり臆病になったりしている子が、好きにあそび、自分なりの「できた！」を積み上げていく。そんな子どもたちの成功体験を支えていきたいなあと思います。

筑波大学付属小田中博史元副校長は「チャレンジ精神の育て方」として次のことが大切だと述べておられます。。

・子どもが失敗したときには「大丈夫、次があるよ」と声をかけ、結果よりも挑戦を肯定する

・家庭では「間違えてもいい」と思える雰囲気をつくり、安心して挑戦できる空気を大切にする

・子どもがひとりで考える時間を尊重し、「手や口を出しすぎない距離感」で見守る

この日は、穴を掘り始めたところ、すぐ近くに竹が生えてきていることに気付いたようで、タケノコ掘りに方向転換しました。「(穴掘りが得意な)○くんお願い。」「俺に任せて。」「力を合わせてやろうぜ。」そんな言葉が飛び交いながら、たくさんのタケノコを掘り上げました。収穫してご満悦の園児たちでした。

でもそれで終わりではありませんでした。副担任の先生と通路の展示場所に並べることにしたのですが、長い順に並べて「ドレミファソラシド！」と歌ったり、数本取り出してチャンバラごっこをしたりしたそうです。

穴掘りはわくわくの森ばかりではありません。腐葉土置き場や砂場など色々な場所で思い思いに掘っています。園に来られた時に、穴掘り名人の様子をご覧になってください。